

【特集】

豊かな自然が生み出す 阿南の魅力と可能性

生物多様性の視点から地域の活性化を考える

私たちの暮らしは、自然やそこにすむ生き物たちの恵みに頼っています。その恵みを健全なまま子や孫たちに引き継ごう！という趣旨で、1992年「生物多様性条約」が国連・環境サミットで採択されました。その後、日本では生物多様性国家戦略が継続的に策定され、地方自治体に対しては戦略の策定が努力義務となり、2010年には名古屋市でCOP10も開催されました。徳島県でも、昨年10月末に「生物多様性とくしま戦略」が策定されました。豊かな自然を有し、貴重な動植物が生息する阿南市では、生物多様性先進地域をめざし、平成24年度からその基盤となる事業を展開しています。

今回は、本市がめざす生物多様性事業について紹介します。

(写真提供：阿南市KIT賞賛推進会議)



- ①伊島のササユリは近年個体数が減少しているため、さまざまな形で保護活動が行われています。
- ②蒲生田海岸はアカウミガメの産卵地として名高く、平成23年の上陸（産卵）数は県内最多を誇りました。
- ③平成25年1月に新種に認定された「アナナムシオイガイ」。阿南市はカタツムリの宝庫です。
- ④⑤阿南市特産のハモとちりめん。豊かな海の恵みを受けつつ、未来へ残していくことが大事です。

さまざまな可能性を秘めた 阿南の生物多様性

「生物多様性」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。「生物多様性」とは、それぞれの地域の中で育まれてきたさまざまな生き物たちとそのつながり、そして地域の生き物の豊かさを表す言葉です。「生き物」の中には、もちろん私たち人間も含まれており、私たちは生き物たちからの恵みなくしては生きていけません。しかし、この恵みをもたらしてくれる生物多様性が年々衰えています。例えば、世界規模で考えると、森は毎年、四国と九州を合わせた面積（約520万ヘクタール）が消失し、生き物では毎年約4万種が減っています。

そんななか、うれしいことに世界中で阿南だけにみられる新種が発見されました。「アナナムシオイガイ」と名付けられた小さなかわいらしいカタツムリです。阿南市は、貴重な生き物がすむ自然豊かな地域です。このすばらしい宝物を守り、活用し、子どもたちに伝えていくことは、私たちの重要な使命だと考えています。

本市では、生物多様性先進地域となることをめざし、平成24年度から阿南工業高等専門学校と連携しながら、事業を展開しています。昨年は、さまざまなジャンルで生き物を調査研究している専門家15人から話を伺い、市内の

生物分布情報を整理しました。その結果、伊島や蒲生田、加茂谷や那賀川河口などが貴重な生物のすむ場所であることが分かりました。

また、小学5年生から成人に至る約1700人の方にご協力いただき、生物多様性に関するアンケートを実施しました。その結果、生物多様性の認知度は21・7%と、全国平均19・4%（内閣府が実施したアンケート結果）より2・3%高いことがわかりました。その一方で、約8割の方が認知していないという現状も浮き彫りになり、生物多様性についてもっと知っていただく機会をつくる必要があると考えています。

平成26年度には、「市民が選ぶ阿南市の生物多様性ホットスポット」を選定する計画を立てています。「生物多様性ホットスポット」とは、貴重な生物が集中的に生息し、優先的に守るべき場所のことを指します。ホットスポットを選定することで、生物多様性に関心を持っていただき、その宝を地域の活性化やまちづくりに生かすきっかけにしたいと考えています。

それに先立ち、阿南市の自然や生き物の豊かさや魅力を再発見し、生物多様性について一緒に考えていただくため、「阿南市生物多様性フォーラム」を開催することになりました。

生き物から見た阿南市の魅力再発見！地域活性化を考察

生物多様性フォーラム

日時 ▶ 2月8日(土) 13:30~16:00

場所 ▶ ひまわり会館(富岡町北通33番地1)

※入場無料



▶ 問い合わせは 環境保全課(☎22-3413)へ

地域活性化を
考える討論会も
実施します!



本市では、阿南工業高等専門学校と連携して、阿南市に生息する貴重な生き物を皆さんに知っていただき、その保全や活用について一緒に考えていくために事業に取り組んでいます。
阿南市に生息する生き物の魅力のとりことなり、調査・研究を進められている3人の専門家に、生物多様性からみた地域活性化策などについて熱く語っていただきます。世界に誇れる阿南市の豊かな自然や生き物たちを知ることができる絶好の機会ですので、ぜひご参加ください。

伊島のササユリが もたらす生物多様性

伊島にはとても美しい花、ササユリが咲いています。現在、ササユリは伊島だけでなく全国で減少の一途をたどっています。貴重なササユリの生態を記録し、どうすれば回復できるのかを考えるために調査を行いました。

ササユリは自家不和合性という特性があり、自分の花粉で種を作ることができません。そのため、ほかの株の花から昆虫に花粉を運んでもらう必要があります。24時間花を撮影すると、ササユリの蜜や花粉を食べるスズメガやコハナバチなどたくさんの種類の昆虫が訪花することがわかりました。特に花粉をたくさん運ぶのは、スズメガという夜に飛ぶ大きな蛾でした。



ササユリの蜜を食べに来たスズメガ

そこでササユリのおいの強さを調べてみると、昼はあまりにおいを出しませんが、午後8時頃に強いにおいを出していることがわかりました。これはササユリが蛾に見つけてもらうためにおいを調節しているためです。



▶ 横田静香さん(よこたしずか)
1983年7月12日生 福岡市(阿南市出身)
国立大学法人九州大学工学研究院
環境社会部門 特任助教 理学博士
専門は植物の保全生態学

ササユリと花を訪れる昆虫の生態学的な結びつきによってササユリがもたらす生物多様性が明らかになりました。フォーラムでは、他の県やササユリや徳島の近縁種ジリヨウユリの研究結果を引用し、伊島のササユリの効果的な保護方法を考察します。

阿南のカタツムリ 知られざるその多様性と魅力

カタツムリは「でんでんむし」「まいまい」などさまざまなニックネームで呼ばれ、童謡や物語にも登場する、幼稚園児から大人まで知っているなじみ深い生き物ではないでしょうか。スロライフの象徴ともいえるこのカタツムリが、実は阿南市の中山間地にたくさん生息しています。太古の昔、海から陸上上がった「貝の仲間」であるカタツムリが数多くいるのは、同じく海の底に堆積した生物の殻由来する石灰岩が多い地質学的な特徴とも深い関わりがあります。カタツムリ探しにはもってこいの阿南市ですので、皆



吉井小学校で出前授業をするようす

▶ 松田春菜さん(まつだ はるな)
1984年1月7日生 佐那河内村(北海道出身)
徳島県立佐那河内いきものふれあいの里
ネイチャーセンター専門研究員
専門は貝類の分類・生態



さんの身近な場所から思いがけない姿形の種類が見つかるかもしれません。
昨年1月、新たに「アナムシオイガイ」が仲間入りしました。直径わずか3ミリほどの小さなカタツムリですが、全世界で阿南市からしか見つからない、とても希少な種類です。自然環境が維持されてきたからこそ見つかったこのカタツムリを世代を超えてどう伝え、守っていけばいいのかが、阿南市のカタツムリの知られざる魅力とともにご紹介したいと思えます。

伊島、良い島、すばい島

毎年8月の下旬に、大学の野外実習で伊島に来ています。最初に来たのが1998年で、2003年から10年間、実習と研究で通っています。



▶ 長谷川雅美さん(はせがわまさみ)
1958年2月26日生 千葉県白井市
理学博士
東邦大学理学部生物学科教授
専門は島嶼(とうしょ)生物学

など時間が経つのを忘れて観察に没頭します。シュノーケルを使って、潮下帯の生物も観察します。漬物石ぐらいの岩をそとと上げてみると、クモヒトデやアワビの子どもにも出会えます。目が慣れてくると、岩の角にカサゴがじつとしていたりマダコ姿も見えてきます。
私の研究対象であるヘビやトカゲといった爬虫類や、夜に観察できる大きなシールボルトミミズ、ニホンヒキガエルもしろいのですが、何ととっても海と陸の自然を満喫し、生き物同士の関係を体感できるのが、伊島の最大の魅力です。

